

■ 本文

※例文は学習用に作成しています。

- ① 文を書いて、友に送りけり。
- ② 鐘の音を聞いて、夜の更けぬるを知る。
- ③ いみじう趣ある夕暮れなりけり。
- ④ 親のことを思うて、都へ帰りぬ。
- ⑤ この僧、たふとくおぼえて、人みな拝みけり。
- ⑥ 経を読んで、亡き人を弔ふ。
- ⑦ 鳥の飛んで行くを、ながめむたり。
- ⑧ 花の散りぬるを惜しうおぼゆ。
- ⑨ 童、走つて門を出でぬ。
- ⑩ 笠を取つて、深く礼をなしけり。
- ⑪ 月の光、いと明うさし入りたり。
- ⑫ 雪の積もんで、道も見えずなりにけり。
- ⑬ 風の吹いて、桜のいたう散りけり。
- ⑭ かの人、立つて出でなんとす。
- ⑮ 都に人多かなり、と人の語りき。
- ⑯ 矢をはげて、的を射んとす。

■ 設問 (全25問)

1. 傍線部①「書いて」について、音便の種類を答えよ。
2. 傍線部①「書いて」で音便が起きたのは、下にどのような語が続いたからか。続く語を抜き出して答えよ。
3. 傍線部②「聞いて」について、音便の種類を答えよ。
4. 傍線部③「いみじう」について、音便の種類を答えよ。
5. 傍線部④「思うて」について、音便の種類を答えよ。
6. 傍線部④「思うて」を、現代語訳せよ。
7. 傍線部⑤「たふとく」について、音便の種類を答えよ。
8. 傍線部⑤の「たふとく」は、後に「たうとく」とも書かれ、さらに「たうとう」のようにウ音便で読まれることがある。この語の終止形（基本の形）を答えよ。
9. 傍線部⑥「読んで」について、音便の種類を答えよ。
10. 傍線部⑥「読んで」で音便が起きたのは、下にどのような語が続いたからか。続く語を抜き出して答えよ。
11. 傍線部⑦「飛んで」について、音便の種類を答えよ。
12. 傍線部⑦「鳥の飛んで行く」を、現代語訳せよ。
13. 傍線部⑧「惜しう」を、音便が起こる前の元の形（連用形）に直せ。

14. 傍線部⑨「走つて」について、音便の種類を答えよ。
15. 傍線部⑨「走つて」で音便が起きたのは、下にどのような語が続いたからか。続く語を抜き出して答えよ。
16. 傍線部⑩「取つて」について、音便の種類を答えよ。
17. 傍線部⑪「明う」を、音便が起こる前の元の形（連用形）に直せ。
18. 傍線部⑫「積もんで」は撥音便であるが、もとの「積もりて」の「て」が「で」と濁音になっている。なぜ「て」が「で」に変わるのか、簡潔に説明せよ。
19. 傍線部⑬「吹いて」について、音便の種類を答えよ。
20. 傍線部⑭「立つて」を、音便が起こる前の元の形に直せ。
21. 傍線部⑮「多かなり」は、もともと「多かるなり」の形であった。ここに含まれる撥音便について説明した次の文の空欄を補え。
「多かるなり」は撥音便化して「多か（ あ ）なり」となり、さらにその音が表記されず「多かなり」となっている。この、表記されない撥音便を特に何というか。
22. 次の各語を、音便が起こる前の元の形に直せ。
- ① 書いて
 - ④ 思うて
 - ⑥ 読んで
 - ⑨ 走つて
23. 次の各語を、音便が起こる前の元の形に直せ。
- ② 聞いて
 - ⑩ 取つて
 - ⑫ 積もんで
 - ⑬ 吹いて
24. イ音便・ウ音便・撥音便・促音便のうち、活用語に「ん」の音が現れるものをすべて選び、種類の名で答えよ。
25. 次の説明にあてはまる音便の種類を、それぞれ答えよ。
- (1) 「い」の音に変化するもの。
 - (2) 「う」の音に変化するもの。
 - (3) つまる音（小書きの「つ」）に変化するもの。